

【実践事例（3）】

（石巻市立湊小学校）

災害時の停電を想定して避難に必要な情報収集の方法を確認

学校の状況

- 学校及び学区周辺は、旧北上川が太平洋にそそぐ河口東岸に位置する。
- 学校は海拔3mにあり、北東には自然豊かな牧山を中心とする丘陵が連なる。
- 東日本大震災では、湊地区一帯は壊滅的な被害を受け、校舎は1階天井まで浸水している。

施設設備

- 緊急避難場所（津波・高潮・洪水・内水氾濫・土砂災害）となっている。
- 校庭から屋上に上がることができる、緊急避難階段がある。
- 太陽光パネルの設置による非常用電源がある。
- 避難所としての設備がある。



取組方法（防災備品の活用の実際）

1 ラジオとトランシーバーの常備

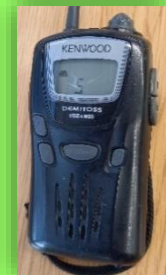
(1) 各学級に非常持ち出し袋

乾電池式のハンディーラジオライトを入れており、情報収集に活用できるようにしている。手動発電が可能な物になっている物もあり、乾電池が使えない場合も対応できる。また、定期的に持ち出し袋の中身を確認して、古くなっている物があれば、新しいものに入れ替えをしている。避難訓練の際には、担任が必ず持って、避難している。



(2) トランシーバー

担任が1台ずつ持っており、緊急を要するときには、教員同士の連絡手段として日常的に活用している。そのため、教員は使用方法にも慣れている。



2 地震・津波避難訓練（高台避難）

(1) 校内放送が使えない前提で、トランシーバーを活用

本部からの指示を受けたり、教員が児童の安否を確認したりしている。

(2) トランシーバーの電波の届き具合を確認

校地外でのトランシーバーがつながる範囲を確認している。また、実際の高台避難の際にも、先頭と最後尾の連絡を取り合うようにしている。